

研究課題 (テーマ)	よろずレポート相談所 (年次を超えて学生同士が教え合い学びあう教育)		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	知能デザイン工学科	教授	高木 昇
		教授	神谷 和秀
		准教授	高野 博史
研究結果の概要			
<p>1. 実施内容</p> <p>大学院生(M1)と学部生(B4)が相談員となり、実験、演習、講義のレポートを下級生に指導する場として「よろずレポート相談所」を開所した。学生同士が教え合い学び合うことで、下級生はレポートの質や理解度向上、相談員は指導能力や論文執筆能力の向上を狙っている。本年度は相談員向けの効率的な運営を行うため、学生実験のレポート添削は時間予約制とした。実験レポートの添削を1回30分、講義・演習科目についての相談は10～20分とし、事前に相談者がチェックして欲しい項目を用意する形式にて実施した。</p> <p>平成29年度は、前期は月曜9-10限と火曜5-6限・9-10限、後期は月曜7-9限と金曜9-10限に図書館1階・共同閲覧室にてよろずレポート相談所を開設し、全40回実施した。添削科目は、知能デザイン工学概論(B1)、物理実験(B1)、パターン情報処理(B2)、知能デザイン工学実験1・2(B3)であった。</p> <p>2. 知能デザイン工学実験(B3)の実験報告書における効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談時間を予約制としたことで約98%の学生が良かったと感じていた。理由としては、混雑による待ち時間が無いこと、予定が立てやすいことがあげられた。 ・またほとんどの学生がレポート内容を改善できたと回答している。役立つ点として、誤字や図表の指摘、文章の書き方の他、内容指導にも及んでいた。不満点には、相談時間や実施日の拡充があった。 ・相談員のアンケート結果では、90%以上の学生がレポート指導を通じて学力や論文作成能力の向上に繋がったと回答した。自身の成長については、相手のレベルに合わせた説明力向上や自身の文章をしっかりチェックする習慣が身についたという意見があった。不満として、受けに来る学生の態度が悪いことや未完成レポートをそのまま持ってくる学生への対応についての意見があった。 ・教員からは、よろずレポート相談所のチェックを受けることによってレポートの体裁が整い、内容の指導に大きく時間をあてることができるようになったとの意見があった。昨年と比較して、レポートの質に大きな変化は見られないが、体裁を重点的にチェックするという目的は果たしており問題も生じなかった。 <p>3. その他の講義レポートにおける改善効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生や2年生のアンケート結果についても、80%の学生がレポートの添削が役立っていたと回答した。 <p>今後の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生と相談員の相互にメリットがあり、相談を受けた学生の多数がレポート作成能力向上に効果があったことから、次年度も継続したいと考えている。一方で、相談にのぞむ態度が悪い学生や、未完成レポートを持ってくる学生も見受けられた。そのため平成30年度は、相談所利用ルール・マナーについて事前に伝えることで効果的な運用を実施する。 			